

しののめケアハウス便り

プレス & くれっしんど

~ひと息ついて、さあ一光に向かって生きよう~

わたししがあなたがたを愛したように
あなたがたも互いに愛し合いなさい。



NO.42

2025年 11月

ヨハネによる福音書 | 3章34節

～希望、レジリエンス・逆境力を祈って～

2025年10月、今世界は3年以上も続くロシア、ウクライナ戦争、イスラエルとパレスチナの戦争の極地ガザ地区における戦争、ミャンマーにおける軍事支配等の中にある。多くの兵士、民間人の死亡と虐殺、飢餓の中で苦しむ子供や女性への虐待、目を覆うばかりの苦難に満ちている。一刻も早い戦争の終結と人々への癒しが求められている。また戦争PTSDからの回復と暴力の連鎖からの解放は苦難の道となるでしょう。全く理不尽な国と国レベルの争い、力による支配に止まらず、身近な日常の家庭の中にまで暴力の支配は多く、回復の手立てもカベが高く理不尽との実感を覚える。

しののめケアハウスには乳幼児期、学童期を親や親族からの虐待を受け続け、制度的受け皿の中でも適応できず逃れてきた方、DV被害からの生きがいを求めて出産した子からの暴力の再生を逃れてきた方、第三者からの性被害と親や兄弟からの虐待と幾重にも人権侵害を受けた方、ギャンブル依存の親から受けたネグレクト、3世代に渡る夫婦双方のDVの連鎖で苦難の渦中にある方等様々な方が避難されてくる。受けた傷の深さは測り知れず回復も困難を極める。明るい表情の下に悲しみの号泣は通底奏音として響いている。再出発の場としての「住まい」の確保は至難で生活保護や保証人が得られない、障害がある等社会からの拒否と本人のうつ等による行動力の低下、思考の混乱、支援者のパターン的対応、親や近親者の拒否等様々な要因がある。ここにも理不尽としか表現できない現実がある。

シェルターからの退去が困難な方、支援継続の希望者へ「シンオンの家」での支援を継続しているが自立はさらに大変困難で居室確保への影響でシェルター運営も厳しい状況にある。他の施設も同じ課題を抱えておられるのではないか。でも、理不尽と嘆いてばかりもいられない…

この現実の中で希望とレジリエンスをどう受け止めるか？この理不尽な、閉塞状況の中で「わたしは世の光である。私に従って来るものは、やみのうちを歩くことがなく、命の光を持つであろう」と語られる主のみことばを聴く。希望と生きる力を頂いて日々生かされと願います。

9月は相談員協議会で相談員との交流会が初めて開催されました。支援の輪の強化に感謝したい。更に10月は困難女性支援新法による沖縄県計画についての研修会開催を計画実施しました。支援の充実に繋がり弱くされ、小さくされた方達の再生力が高められるよう、期待します。



2025年度 4月～10月利用報告

2025年4月～2025年10月

1. 利用者の年齢別・理由別 利用状況（延べ人数）

理由 年代	配偶者 等の暴力	家庭内 暴力	恋人から の暴力	貧困ホー ムレス	その他	計	割合
10	0	0	0	0	1	1	16.7%
20	0	0	0	0	1	1	16.7%
30	0	0	0	0	0	0	0.0%
40	0	0	0	0	0	0	0.0%
50	4	0	0	0	0	4	66.6%
60以上	0	0	0	0	0	0	0.0%
計	4	0	0	0	0	6	
割合	66.6%	0.0%	0.0%	0.0%	33.4%	100%	100%

2025年度は5名の利用にとどまった。シオンの家の利用の長期利用で、しののめケアハウス居室確保が困難になり利用希望への対応ができなかった。5名の利用者は10代1名、20代2名、50代2名となった。配偶者や家族からの暴力で避難後の生活基盤の確立に時間が要している。

2. 同伴者の状況 性別・年齢（延べ人数）

	乳児	幼児	小学生	中学生	高校生	18歳以上	計	割合
男	0	0	0	1	0	0	1	50.0%
女	0	0	0	0	1	0	1	50.0%
計	0	0	0	1	1	0	2	100%
割合	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100%	

同伴者は1家族で他は単身の利用でした。

3. 紹介機関（利用契機）

理由 年代	県女性相 談所	DV相談セ ンター	市町村	教会関係	その他	計	割合
10	0	0	0	0	1	1	16.7%
20	0	0	0	0	1	1	16.7%
30	0	0	0	0	0	0	0.0%
40	0	0	0	0	0	0	0.0%
50～64	0	0	3	0	1	4	66.6%
65以上	0	0	0	0	0	0	0.0%
計	0	0	3	0	0	6	100.0%
割合	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	100.0%	

紹介機関は市町村が3、その他は関係施設及び知人紹介である。

4. 退所先

行先	県機関	市町村	アパート賃貸	親族宅	自宅	病院	シオンの家	その他	計
人数	0	0	0	0	2	0	1	2	5

自宅1は夫が自宅退去により安全確保ができ当所を退去。その他は施設及び友人宅へ。シオンの家1は保証人確保ができずアパートの賃借ができなかった事による。

5. 利用日数

行先	1～5泊	6～10泊	11～15泊	16泊以上	総日数	平均滞在日数
人数	1	0	2	2	69	14.60

支援者
の
声

ジョイネス沖縄は、年齢性別を問わず、地域社会のニーズに関心のあるメンバーで構成され、「女性と子どもたち」を主なテーマとして活動しているボランティア団体です。しののめケアハウスさんには、第3回ジョイネス基金を贈呈、10周年記念継続事業として医療支援金を毎年贈呈しております。恒例のチャリティーコンサートには、ジョイネス沖縄の会員が演奏をしたり、時には、劇をしたりと何度も一緒に参加させて頂きました。しののめケアハウスさんとは設立が同じ16周年ということもあり、今期のチャリティーコンサートは共催として参加させて頂きます。共に素敵な時間が過ごせるよう会員一同盛り上げていきたいと思います。

ジョイネス沖縄 会長 渡名喜いち子

2025年度しののめケアハウス主催 支援者関係者研修会が開かれる

困難な課題を抱えた女性や子ども支援者研修会が10月23日(木)に22団体36名の参加で開かれました。「困難な課題を抱える女性への支援に関する法律」(女性新法)が2024年4月施行され、沖縄県においても自立支援基本計画が策定され推進されて1年の段階での県の取り組みについて学び意見交換の初めの時となりました。講師には沖縄県こども未来部女性力・ダイバーシティ推進課主幹の国場百代さんが「婦人保護法」から「女性新法」の変遷、沖縄県基本計画についての説明がありました。

休憩後、沖縄県女性相談支援センター長宮城美那子さんも加わり、参加者からの質問や意見に応えていました。いろいろな意見が出され、宮城所長は個人的意見と断りつつ、民間の現場で取り組んでいることや困っていることに応えるために県関連の機関の課題解決に取り組みたいとの発言があり、その姿勢に期待する参加者の声も研修後のアンケートに寄せられていました。県アクションプランを期待しつつ、女性や子どもの課題に伴走する民間機関との連携や協働が多様化する課題解決には不可欠では。今後県の取り組みに注視していきたいと思われた研修会でした。



キリスト教学生の研究テーマに関するインタビューを受ける

7月4日に2名の沖縄キリスト教学院大の宮里さんと知花さん(4年生)よりしののめケアハウスの取り組みについてのインタビューの申し込みを受けました。仲宗根委員長が2時間近い説明と質問に答えていました。お二人はカメラやテープ等準備し、聞き洩らさないようにと真剣に取り組んでいました。その熱意に今後を期待したい。



女性相談支援員連絡協議会の研修会に招かれて

9月25日午後2時より「令和7年度沖縄県女性相談支援員連絡協議会第1回の研修会」が沖縄キリスト教センター会議室で開かれました。今回は「しののめケアハウスの働き」を学ぶ研修会でした。しののめケアハウスにとって、各市町村に配置されています女性相談員は支援の連携の大きなパートナーです。普段は電話だけのつながりがほとんどです。今回、連絡協議会からの申し入れを受け、説明後、相談員の会よりいくつかの質問を受ける形で話し合いが進められました。

9カ所の機関から集まりました15名の相談員の方々と初めて顔を合わせた交流会でした。双方にとってこれから支援の連携が密になることが期待される会でした。

2025年度 4月～9月収支書報告

2025年4月1日～2025年9月30日

収入の部			支出の部		
科目	25年度予算	4月～9月	科目	25年度予算	4月～9月
支援金	1,500,000	555,672	室料・面談室	718,000	323,000
利用料	200,000	79,056	利用支援・免除金	271,000	21,000
利用免除金	135,500	21,000	生活・同行支援金	190,000	30,776
資金造成（コンサート）	200,000		研修・資金造成費用	150,000	21,146
研修事業	30,000		管理費	1,326,000	400,558
雑収入	14,183	13,081	什器備品	150,000	0
			法律相談利用費	50,000	5,500
			医療・カウンセリング	50,000	0
収入総合計	2,079,683	668,809	支出合計		801,980
前年度繰越金	825,317	825,317	繰越金		692,146
合 計	2,905,000	1,494,126	合 計	2,905,000	1,494,126

収入の部： 支援金は個人36件、団体9件あり、利用料1件の収入です。

支出の部： きらくカフェ材料費や同行支援のためのガソリン代等の支出です。

2025年度の支援金・献品者芳名 (個人)

伊波美智子 仲里和花 新垣幸子 比嘉須賀子 大森節子 城間博子 仲宗根勇光 仲本晴男 喜友名ヨシ子 儀保由美子 国吉洋子
嘉数パウロ 宮平良彦 普天間初子 當山君子 秋山宣子 崎原未子 山口加代子 井口華鈴 普天間ともえ 上地晏江 翁長徳子
銘苅辰美 知花スガ子 福盛久子 城間枝都子 仲宗根幸子 匿名3名

(団体)

首里教会 更生保護法人がじゅまる沖縄 聖公会沖縄教区 読谷教会 読谷教会サラの会 医療法人海秀会 沖縄県女性相談支援センター
沖縄県こども未来部こども若者政策課 宗教法人那霸バプテスト教会 那霸バプテスト教会有志「Party of Praise」平和のコンサート

♥ みなさまの支援金・献品が活動の支えです、感謝します。 ♥

聖書の言葉

明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自ら思い悩む。

その日の苦労はその日だけで十分である。（マタイによる福音書6章34節）

私たちは、過去、現在の苦しいこと、つらいことで頭の中、心の中がいっぱいになることがあります。でも神さまは「明日のことまで悩むことは無い」とおしゃいます。今日やるべきこと—それを心込めて、一生懸命やることで充分だといわれます。

「あなたのことは、わたしが守り導くから大丈夫だよ」と。

自分と自分が愛する者、きょう出会う人たちと「まごころ」をもって向き合い、助け合って生きることが大切だと感じます。今あるのは「今日」だけです。苦しいからこそ、つらいからこそ神さまに祈り、生きる力、希望を与えられます。「今日、この日」に希望をもって元気に生きてゆきましょう。

しののめケアハウス運営委員 山口八重子（石川教会信徒伝道者）

銀行 琉球銀行 首里支店 普通570718
支援金 振込先： 郵便 振替口座 番号01790-3-123441
名義 しののめケアハウス
名義 仲宗根幸子
名義 しののめケアハウス

しののめケアハウスは首里教会と沖縄キリスト教センターの協働事業です。連絡先 **090-4471-7727**